



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一九〇号）

立冬

十一月七日

四郷地区の御白石持行事

別宮の御白石持行事は、それぞれのお宮につながりのある地域の奉献団があたります。月讀宮の御白石持には、周辺の四郷地区が奉仕しました。四郷地区は、五十鈴川流域の中村町、楠部町、一字田町、朝熊町、鹿海町で、それぞれの奉献団はこの日はひとつとなり、約六百人が御白石を積んだ木ソリを曳きました。進修小学校から月讀宮までの御幸道路は、エンヤ、エンヤの掛け声が響きわたりました。内宮、外宮のときと異なったところは、御白石を社殿前の箱に納めたこと、4つのお宮がずらりと並ぶため、それぞれが選んで納めたことです。

四郷地区には月讀宮と倭姫宮の二ヶ所の別宮があるため、倭姫宮の御白石持行事にも奉仕します。同地区奉献団長の山本助松さんがある習わしを教えてくださいました。

「どちらにも四郷地区奉献団が奉仕しますが、月讀さんのときは中村町が、倭姫さんのときは楠部町が仕切りをするのが決まりです。地元ですから」。

この地区にはかつて、四郷神社がありました。政府の指令を受けて各地で神社整理が行われたのですが、明治四十一年（一九〇八）に中村町の上田神社、楠部町の櫛樟尾神社、一字田町の平生神社、朝熊町の相生神社、鹿海町の鹿海神社という各地区の神社が、楠部町小村に造営された社殿に合祀され新たに四郷地区の氏神さんとして創建されたのです。しかし、戦後の昭和二十六年には櫛樟尾神社と改称、さらに楠部町以外は各町の神社は分祀され、旧社地に戻りました。楠部町のみの氏神となった櫛樟尾神社は伊勢神宮と同じく二つの敷地を持ち、平成二十三年に遷座を行った今は、東の敷地に社殿が建ちます。

文 千種清美

